

# 社会における漢字の役割と漢字教育

棚橋尚子（奈良教育大学）

# 話題の概要

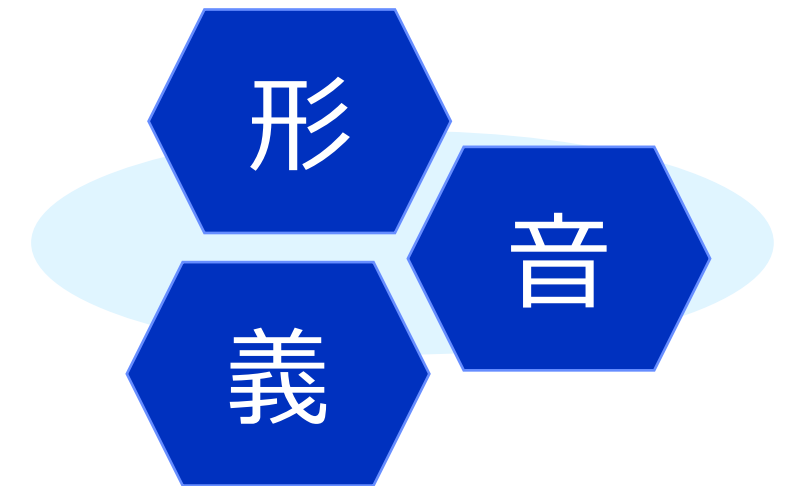
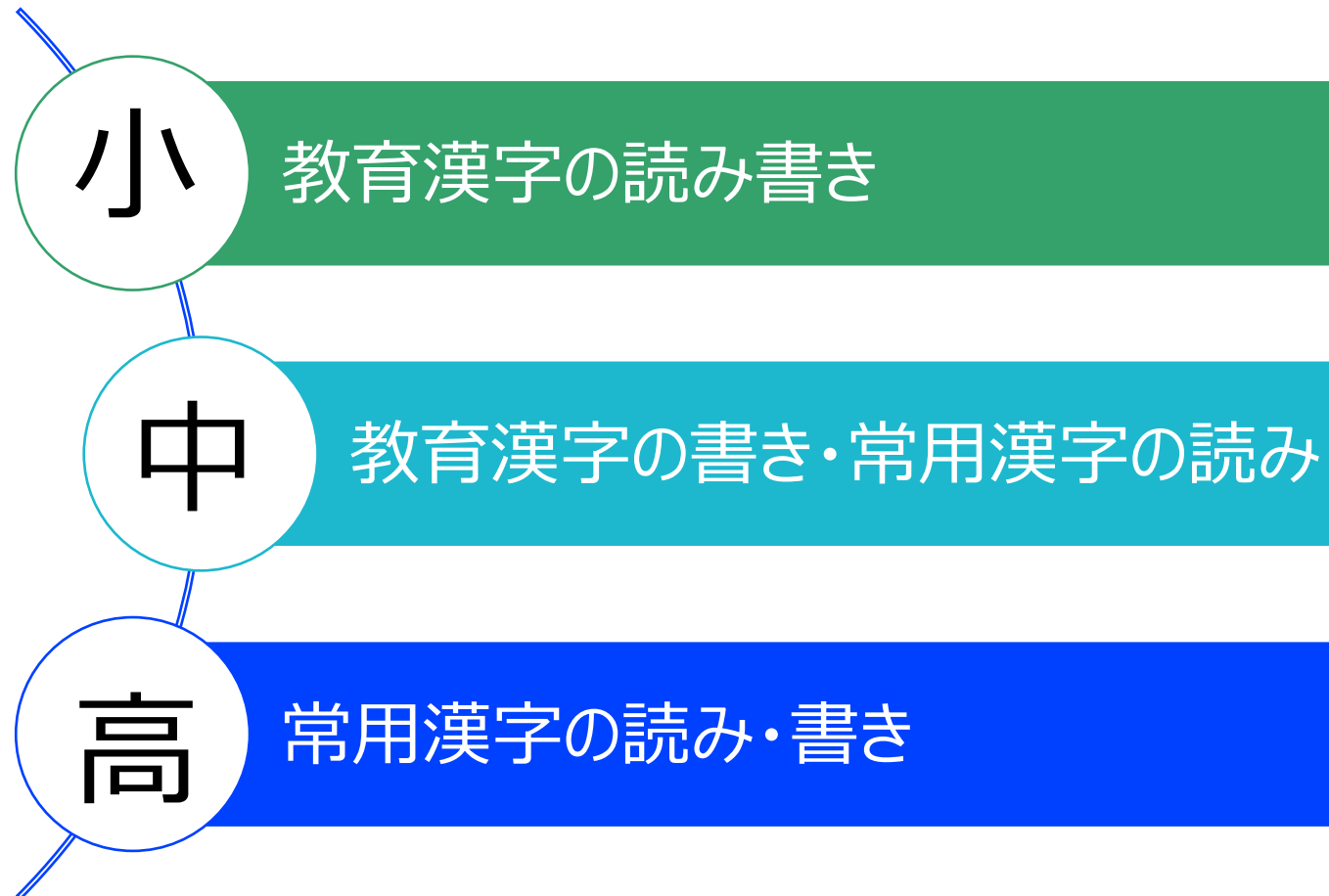
- 社会における漢字の役割とは
- 教育の場で求められている漢字のあり方
- GIGAスクール構想の展開と漢字学習
- 漢字習得の今日的なあり方をどう考えるのか
- 学力を支える漢字の学習になるために

# 社会における漢字の役割とは

- （日本）社会における情報共有，情報伝達的手段
- 個人内での認識，思考のよりどころ
- 日々目にする漢字はほぼデジタル文字か印刷文字
- 仮名についても同じではあるが，字種の数としては圧倒的に漢字が多い

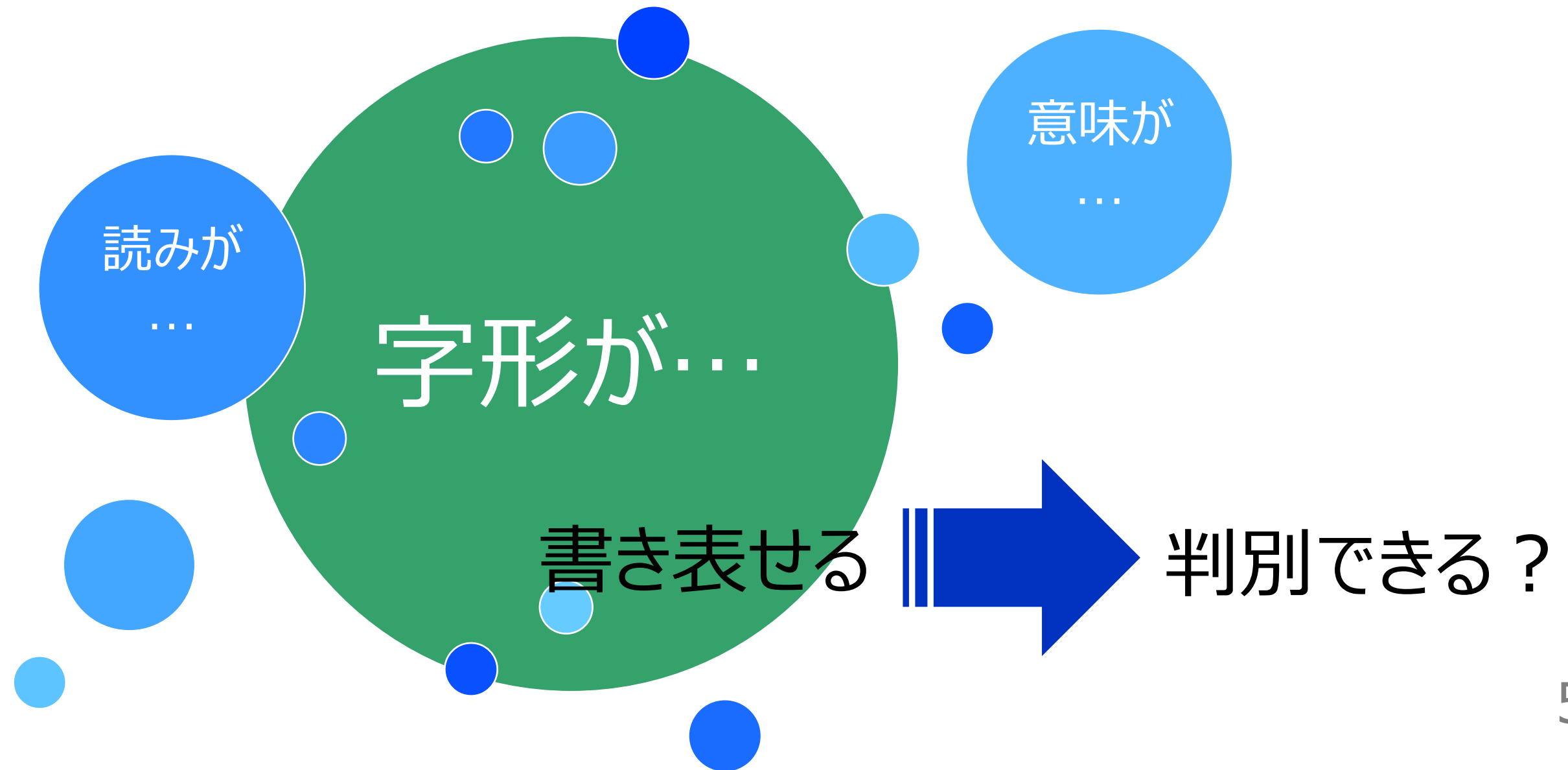
# 教育の場で求められている漢字のあり方

- ・ 読み，書き，文・文章の中で使える



音訓・偏旁冠脚  
などの知識

# 漢字の習得とは



# GIGAスクール構想の展開と国語科学習

- ・ 国語科の場合，スピーチなどの動画チェックのほかには読解や作文における思考ツールとしてデジタル機器を活用する事例が多い

- ・ ノートとの併用が主流だが，  
「入力作業」は増加
- ・ 今後書字は横書き主流へ？



# デジタル以前の漢字の習得は

- 漢字圏の人々にみられる「空書行動」（佐々木・渡辺）
- 一般的には手で書いて覚えるという経験が継承されている
- 偏旁冠脚，意符・音符などの知識が字形習得をメタ的に支えていく（しかし，個人内での意識化？）

# デジタル化の影響は？

- ・「書いて覚える必要がない」と考える中学生の事例
- ・「小学校の段階ではまだ一生懸命書いている」という

## 教師の発言事例

### ■ 実際のところはどうなのか→意識調査

奈良県A市の中学校区の1中， 2小の児童生徒対象（全347名）

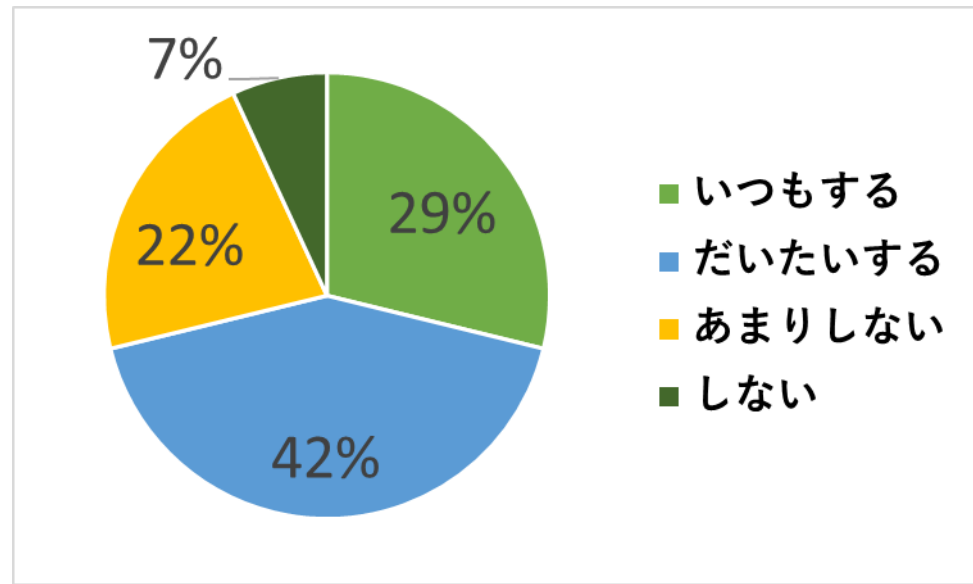
令和4年7月中旬調査

| 小2 | 小3 | 小4 | 小5 | 小6 | 中1 | 中2 | 中3 | 計   |
|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 28 | 39 | 38 | 48 | 44 | 48 | 46 | 56 | 347 |

# 小中学生の漢字書字に対する意識（質問紙）

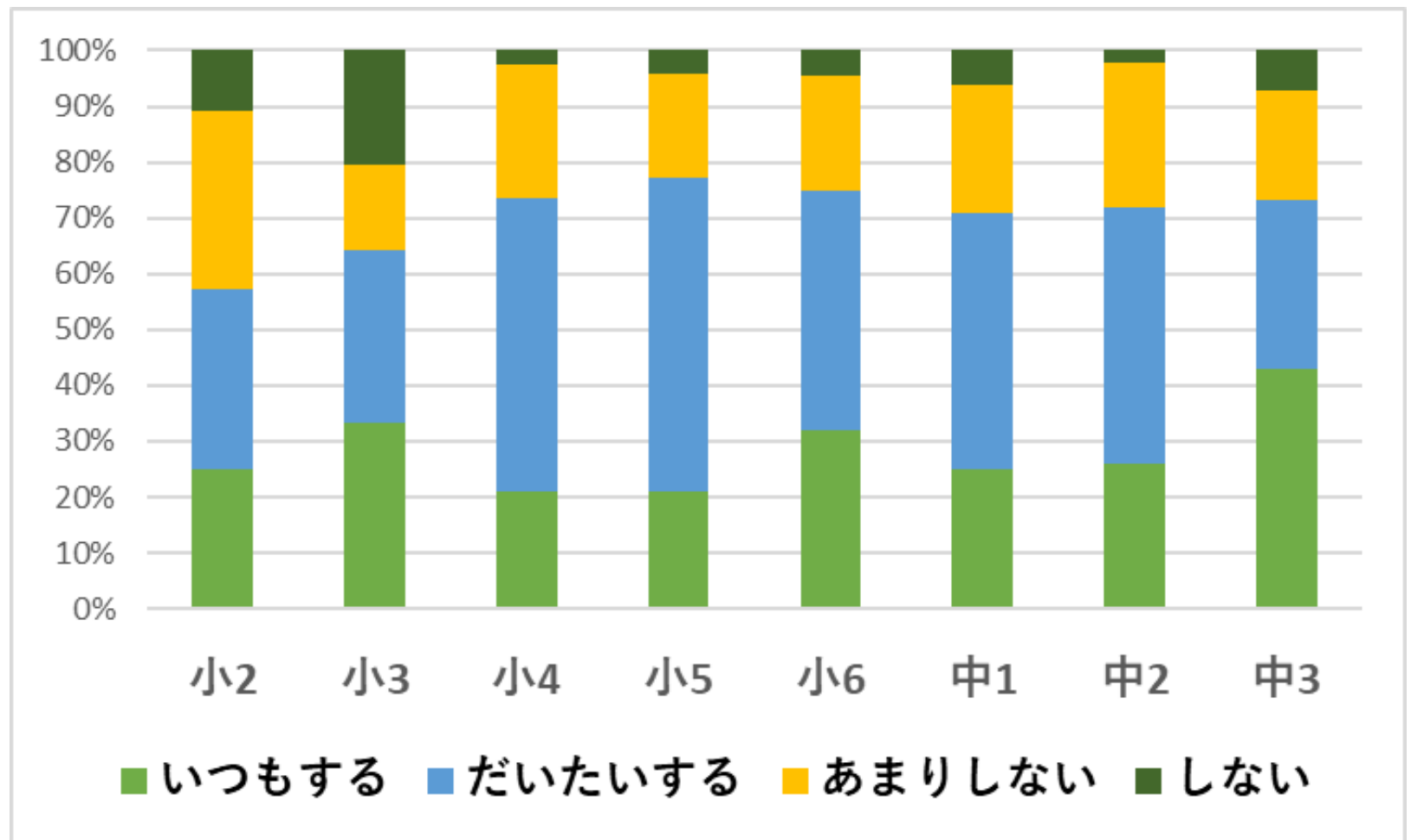
1. 漢字の形を覚えるときに何回も手書きをしますか。
2. 漢字の形を覚えることは得意ですか。
3. 漢字の形を覚えるときにこれからも手で書いていこうと思いますか。
4. 「3」で、③または④と答えた人に聞きます。答えた理由を次から選んでください。（複数回答可）
  - ① 書くこと以外に覚える方法があるから。
  - ② 漢字はタブレットで打ちこむことができ、覚える必要がないから。
  - ③ 何回も書いてめんどくさいから。
  - ④ その他（※自由記述）

# 字形獲得に対する手書き練習の実態

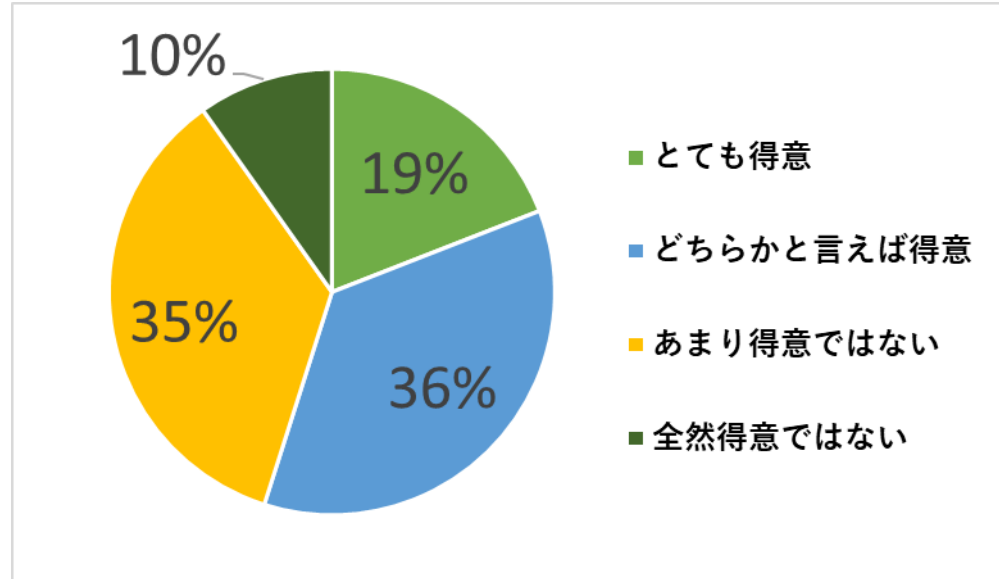


■「いつもする」「だいたいする」という児童生徒は7割程度

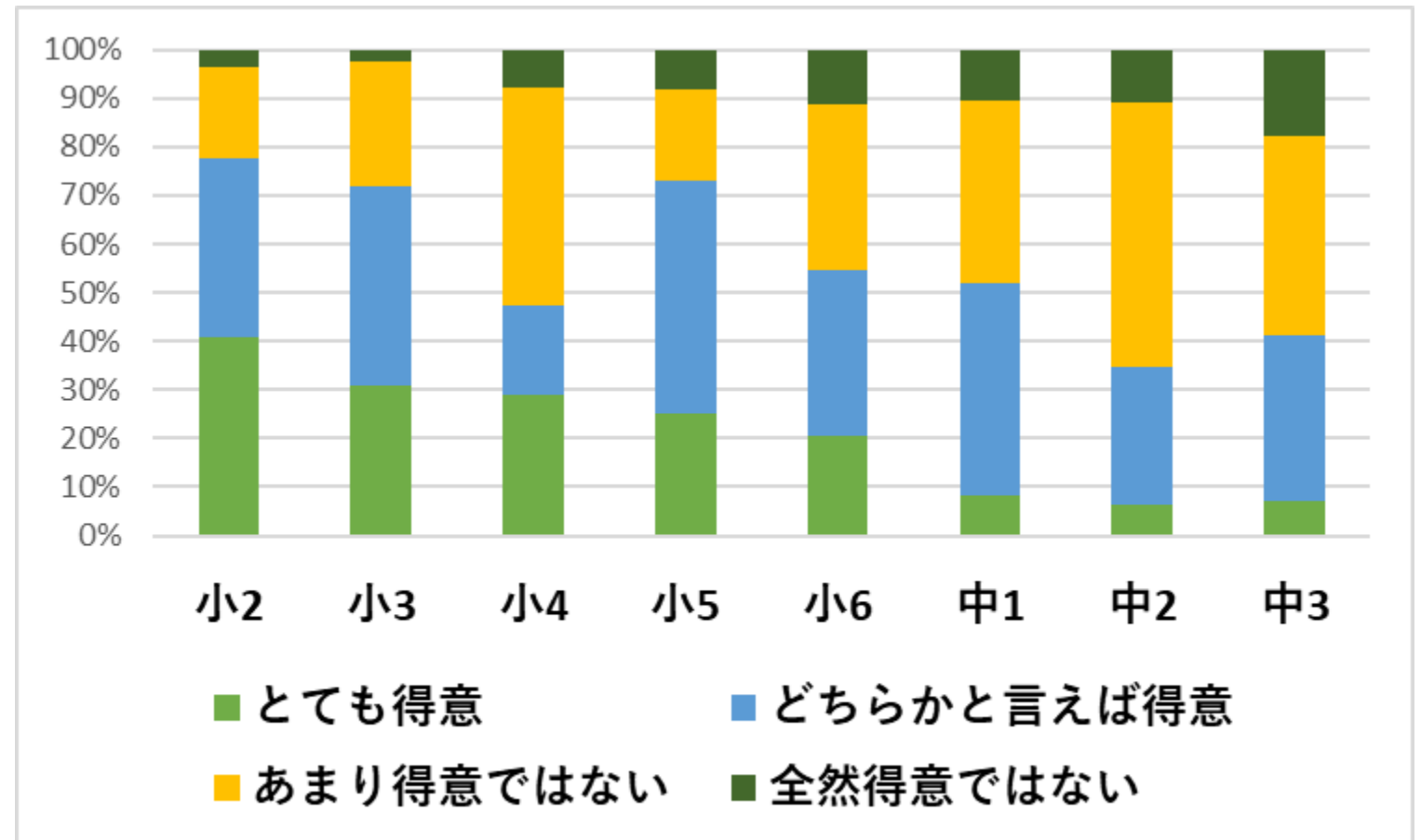
■小学校2年生から中学校3年生まで比率的に有意な差は認められない



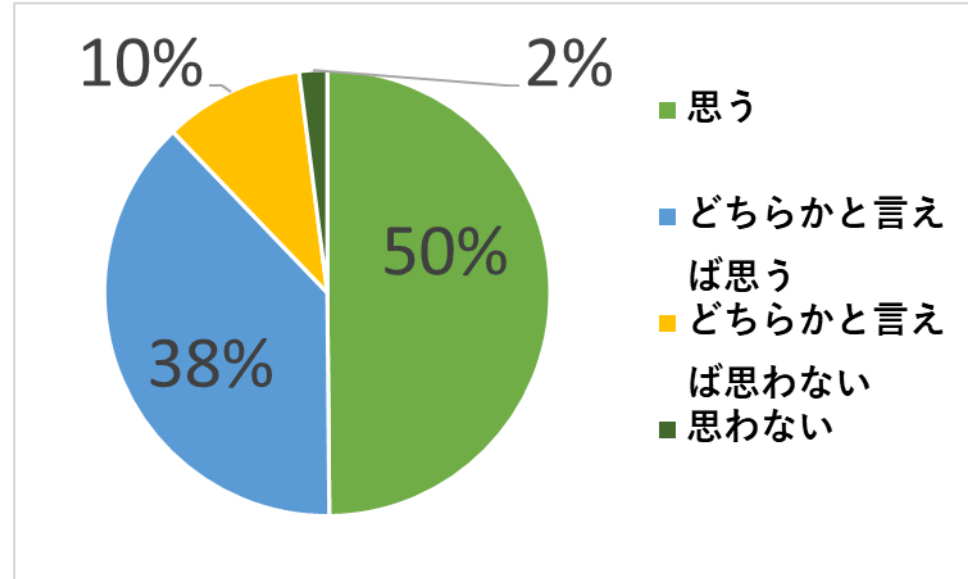
# 字形獲得の得意・不得意意識の実態



- 得意・不得意の意識は中学校入学前後に逆転
- 中学校では新出漢字の「書き」は原則求められていないが...

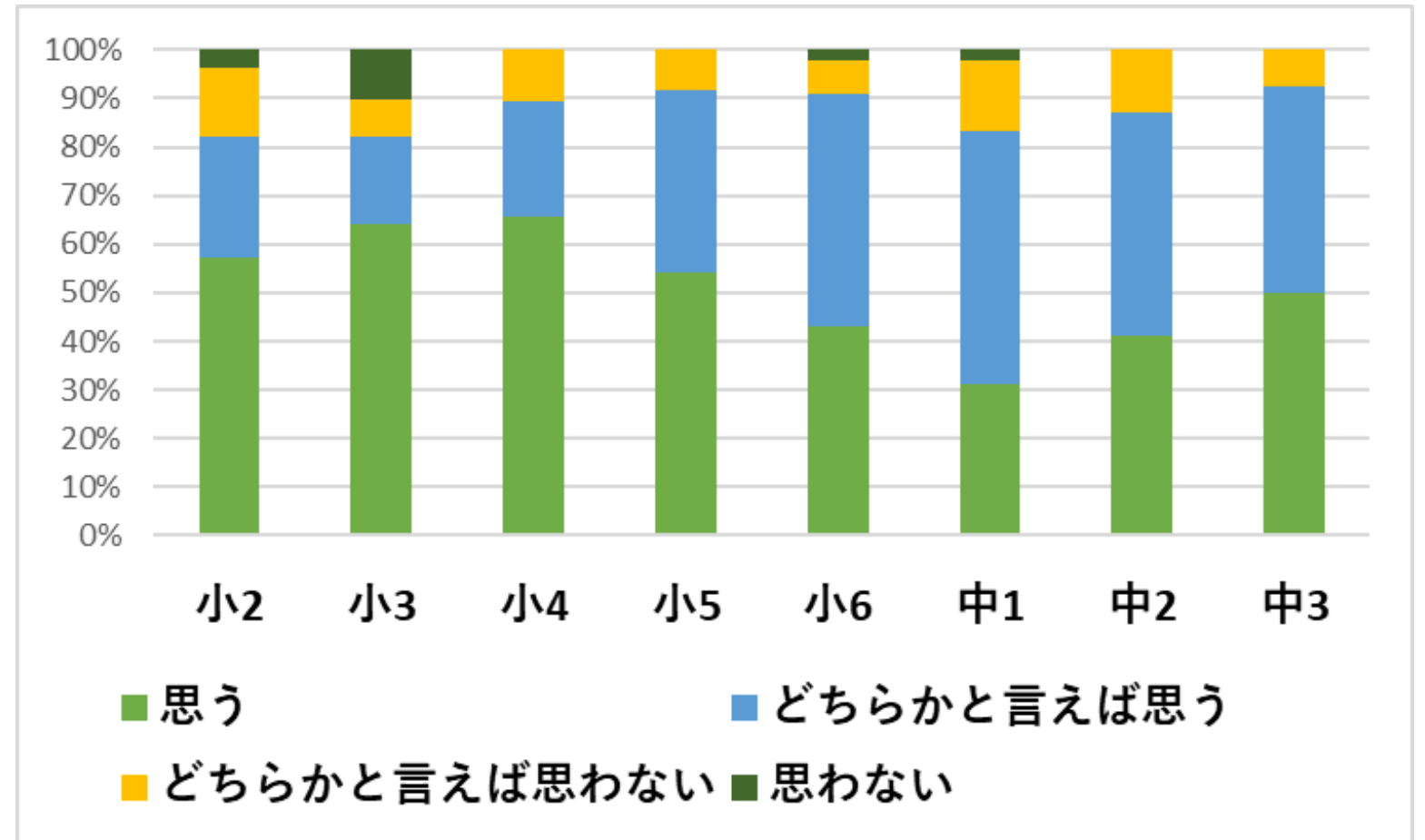


# 今後書字練習をしようと思うか

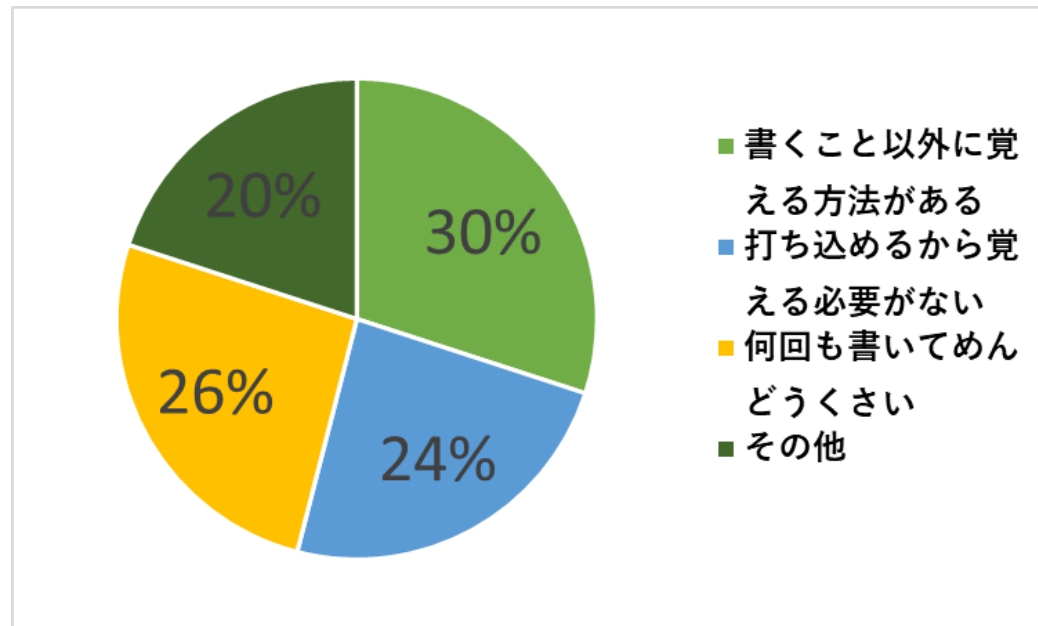


■中1にかけて「思う」は下がる  
が、肯定意見は横ばい。

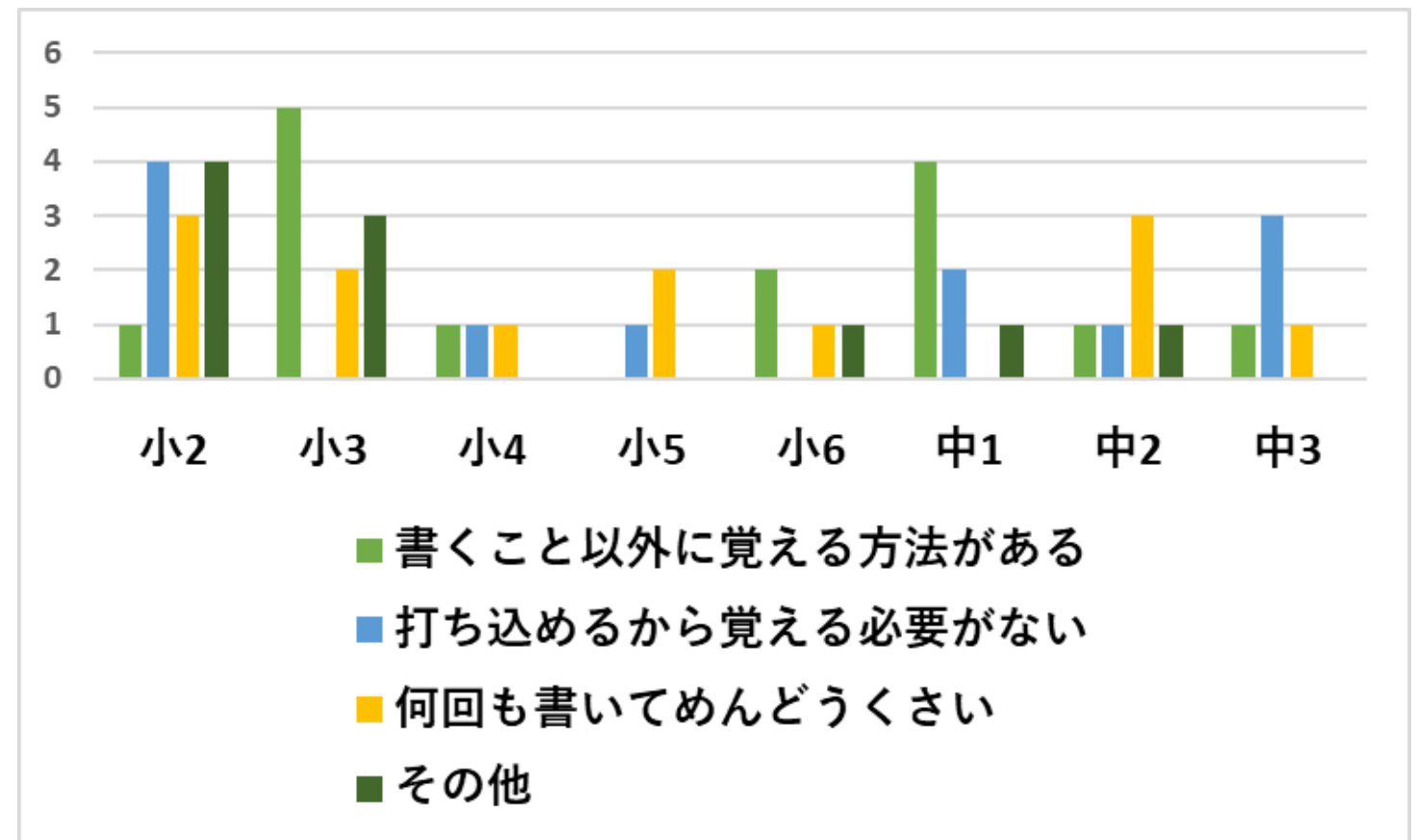
■実際に練習しているか否かと  
は別に、必要だと感じている。



# 書字練習をしない理由は



- サンプルが少なく「傾向」のようなものは看取しにくい
- 仮に「デジタルで漢字を打ち込める」と思っているとしても書字練習はしようと考えている？



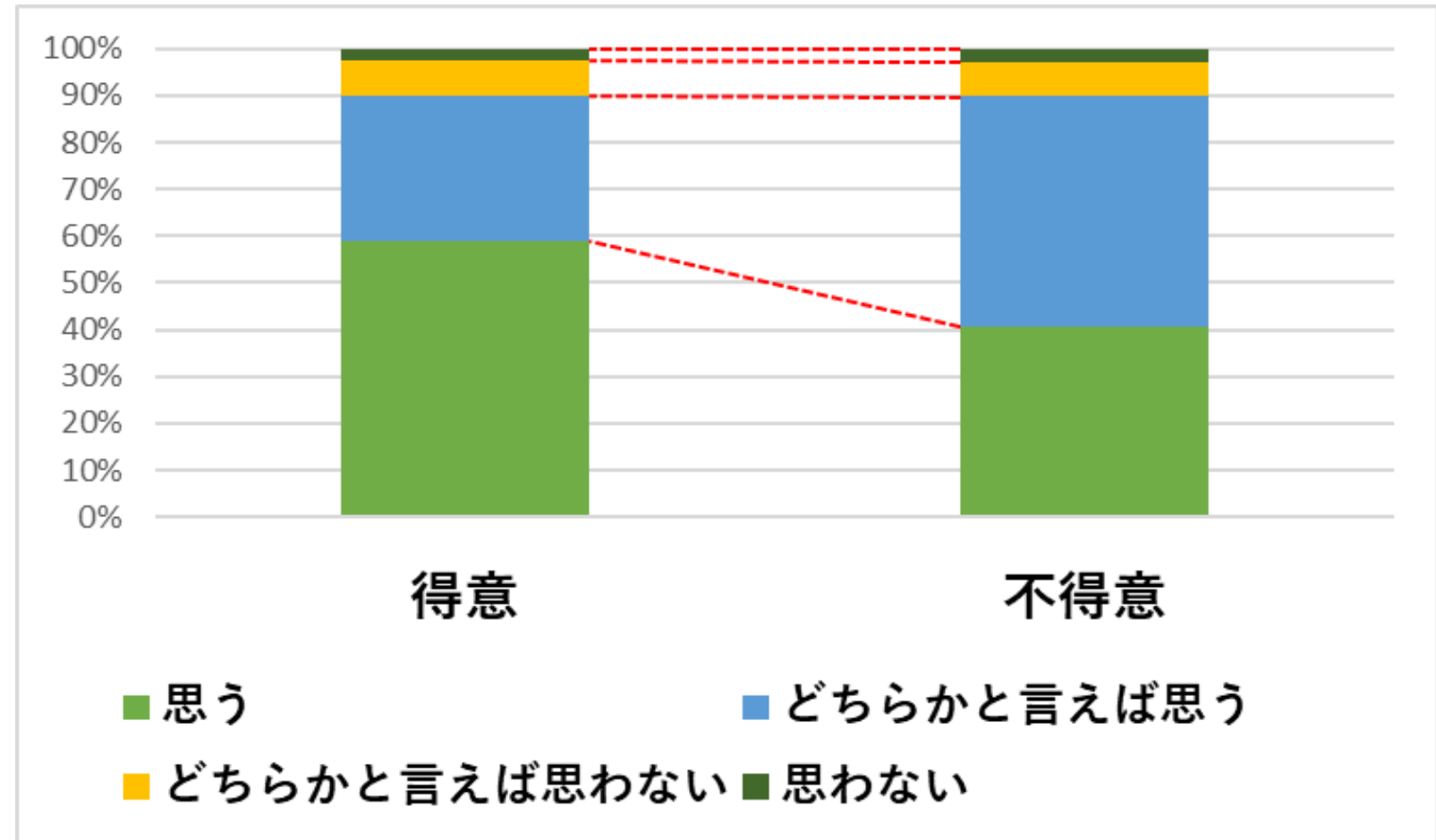
n=42 複数回答可

## 書字練習をしない「その他」の主な理由（記述ママ）

- はやくかん字をおわらせたいから（小2）
- タブレットでれんしゅうするから（小2）
- 家でかんじのノートがある（小3）
- いつもひらがなだからです。（小5）
- 漢字をおぼえようとしてもあまりおぼえるのができないから。  
（中1）
- ③みたいにめんどうやし覚えれへんから（中2）

## 字形獲得の得意・不得意と今後の書字練習意識の関係

- 字形獲得に苦手意識のある児童生徒の場合、今後書字練習をしようと「思う」の比率は低いが、「どちらかと言えば思う」まで含めると、得意だと考えている児童生徒とほぼ同じ比率となる。



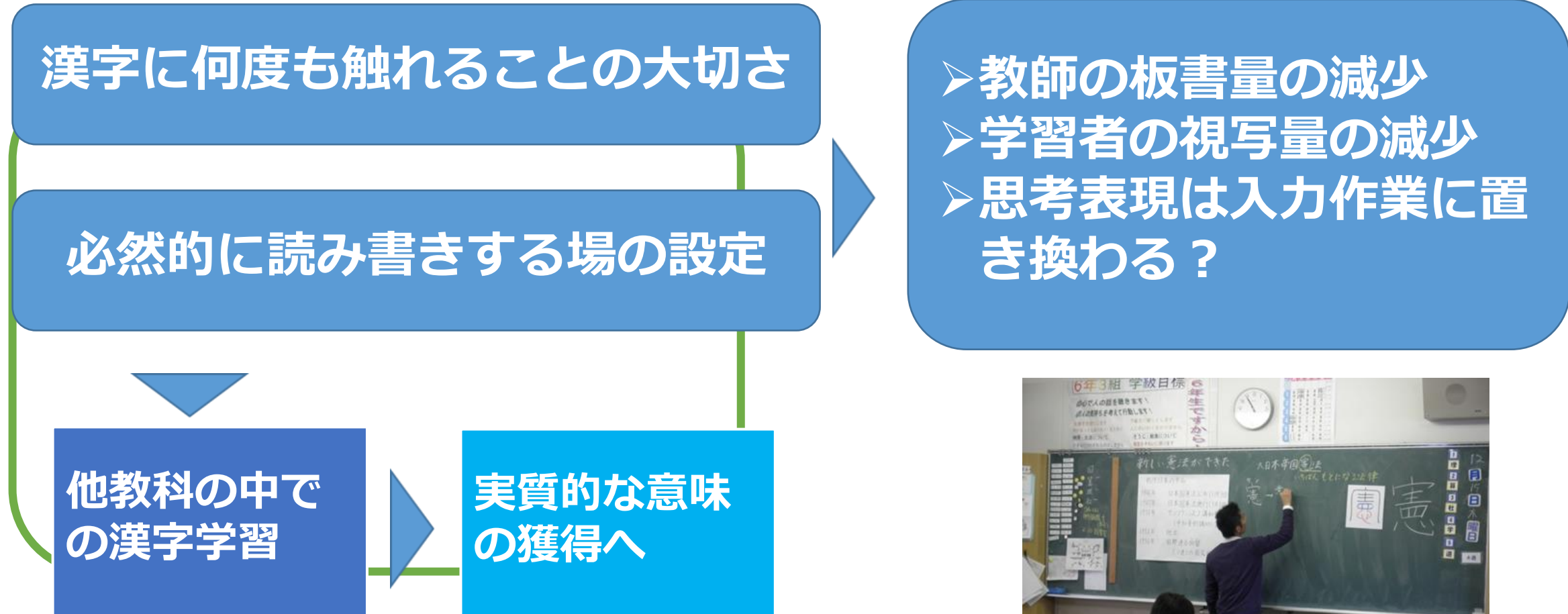
## 大人の経験から「繰り返し書くこと」が継承されてはいるが…

- 学習方略獲得の重要性については多くの研究者が指摘

「形を正確に書くためには、何度も書くことは効果があるとは言えず、漢字全体の形に注意を払うと効果的である」

（丸山）

# デジタル化が生む漢字習得上の問題点



👉 棚橋（2021）：別発表での使用スライド

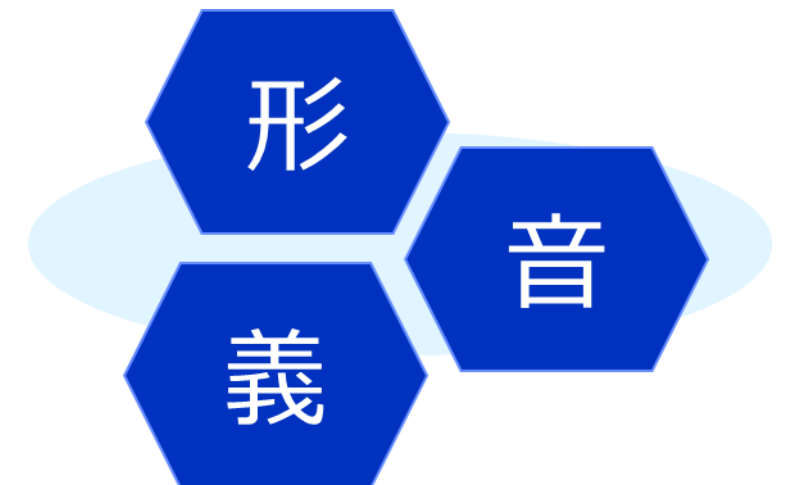


# 漢字習得の今日的なあり方をどう考えるか

- ・ 読売新聞「オンラインシンポジウム 教育の急激なデジタル化の問題を考える」（'22年1月30日）から受ける示唆とは
  - …キーボードを打つと速く，…速いだけに，自分でしゃくする時間を失って受け身になりがち…手で書くと全部は書き取れない。その分，要点を落とさないよう，…自分で考える余裕が生まれる…（酒井）

# 学力を支える漢字学習になるために

- ・ 学習指導要領で求められている「語彙指導の改善・充実」
- ・ 語彙拡大につながる漢字学習へ
- ・ 現状はまだまだ「字形」主義
- ・ 認知されない？「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）」
- ・ 「方法知」等へのまなざし



## 文献（発表年次順）

- ・ 佐々木正人・渡辺章「『空書』行動の出現と機能―表彰の運動感覚的な成分について―」日本教育心理学会『教育心理学研究』第31巻第4号（1983）
- ・ 丸山真奈美「漢字学習方略の検討―書取の読みの2側面について―」名古屋大学大学院教育発達科学研究科『心理発達科学』51（2007）
- ・ 富安慎吾・棚橋尚子・長岡由紀「漢字と文法の学習について改めて考える①  
―今、漢字教育について問うべきことを考える―」『全国大学国語教育学会国語科教育研究：大会研究発表要旨集』141（2021）  
（本編資料は発表会場でのスライド）
- ・ 酒井邦嘉「読売新聞「オンラインシンポジウム 教育の急激なデジタル化の問題を考える」」（2022年1月30日朝刊）